

# 品質カイゼン室の

花のソコが知りたい！

## アジサイ編



日本原産の花として昔から親しまれている「ガクアジサイ」や「ヤマアジサイ」などの「アジサイ」梅雨の季節になると紫や青、ピンクといった色とりどりの花が街中や庭先で目を惹きますよね！色の移り変わりがあることから別名「七変化」とも言われ、その色の種類や咲き方はなんと300品種以上も…！今回は切り花としても、鉢物としても人気のある「西洋アジサイ(ハイランジア)」についてお伝えします。

### ◇基本データ◇

学名:Hydrangea  
原産地:日本・アジア・アメリカ  
分類:ユキノシタ科アジサイ属

<主な生産地>

愛知県・群馬県・茨城県  
島根県・千葉県



◎アジサイの花は…！

#### 装飾花

一般に花序の周辺につき、花は種子が形成されません。がく片は大型で花弁状になっています。

#### 両生花

一般に花序の中心部につき、花は種子が形成されます。がく片は小型です。



## ◇日本原産のガクアジサイから西洋アジサイへ◇

日本原産の「ガクアジサイ」が江戸末期にヨーロッパへ渡り、品種改良後、現在の手毬状の西洋アジサイ「ハイドランジア」となり、再び日本に逆輸入されました。アジサイの野生種や園芸品種、商品名が混在しており、花の形や咲き方は以下の通りさまざまです！



ヤマアジサイ



ガクアジサイ



カシワバアジサイ



ハイドランジア



アナベル

## ◇色の移り変わり◇

街中や庭先で見かけるアジサイの色が場所によって、青色が多かったり赤紫のような色が多かったりと色のグラデーションが見られるのは、土壌の影響を受けているのは有名です！

では、その仕組みはどうなっているのでしょうか…？

→アルミニウムと**化合**することで**青**くなるということなのです…！

アルミニウムは土の中に多量にあり、酸性ほど水に溶けて植物に吸われます。

アジサイはもともとアントシアニン色素(赤色)を持っていますが、

アルミニウムイオンが結合することで青色に変化するのです。

つまり、アルミニウムの吸収が促進されると青色に、抑制されると赤色になります。

栽培時には**硫酸アルミニウム**の施用で、花色を調整しています。



アルカリ性



酸性



## ◇栽培◇(鉢物 ハイドランジアの場合)

### ①繁殖

実生繁殖と栄養繁殖の2通りがありますが、栽培管理上、**挿し木**で行う**栄養繁殖**が一般的です。

### ②栄養生長

腋芽の生長を促します。枚数を増やすためには**摘芯(ピンチ)**を行います。



### ③花芽分化・発達

花芽分化には、**温度条件が最も重要**で適温は 18℃以下 25℃以上では分化は阻害されます。

花芽の発達段階に入ると、適温は低下し 10～15℃ となります。**摘芯は花の充実度を決める重要な作業**となり、花芽分化時期より約 60 日遡ったところが摘芯時期で、これより**早い**と草丈が伸びすぎ、**遅い**と枝の成熟が不十分でブラインドの原因となります。

### 花芽分化後…

**自発休眠**に入ります。休眠打破には 5℃以下の低温 に 6週間以上 遭遇すると打破します。



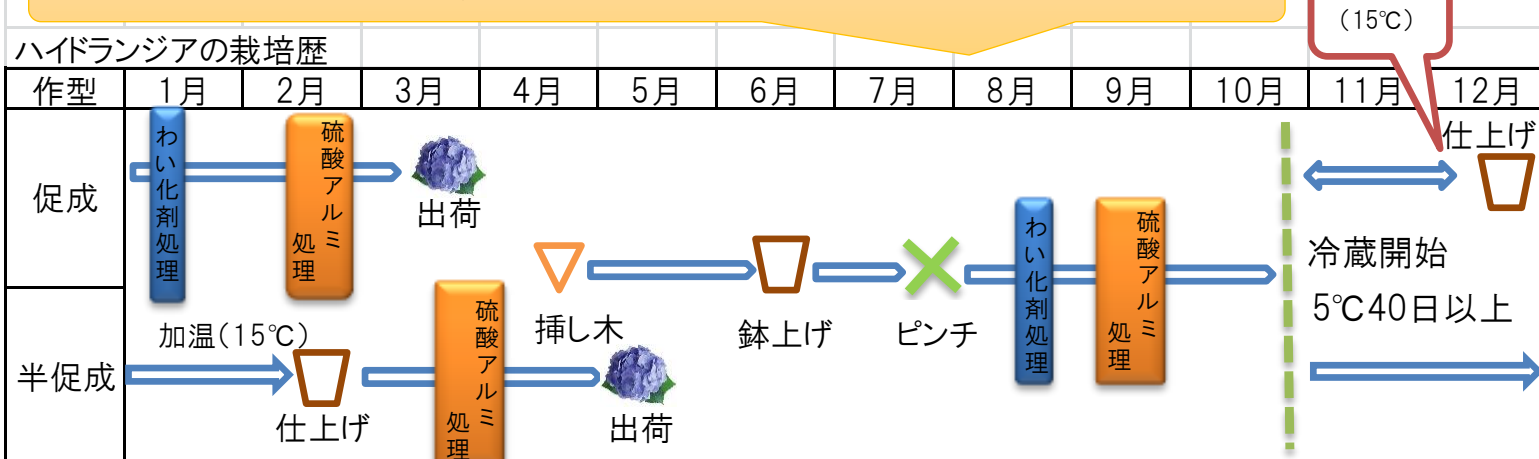
### ④開花

開花時期は加温速度により異なり、開花 2 週間前まで 15～18℃、そのあと開花まで 12～13℃ の加温で **高品質な開花株** が得られます。

### ★ 花色を鮮明に…(硫酸アルミニウムの施用)

土のpHを低くし、アルミの不溶化を防ぐとともにアルミの絶対量を増やします。土壌のpHが低くなるほど鮮やかな青色に、pHが高くなるほど鮮やかな赤色になります！

(注意)ウドンコ病 : 促成中や株養成中に発生します。葉に灰白色の粉をまぶしたような病斑



## ◇管理と日持ち◇

### <鉢物の場合>

直射日光の当たらない場所、  
窓辺から離れた明るい室内の涼しい場所に置きましょう！  
アジサイは水が好きな花なので、水切れには注意し、  
受け皿に水がなくなったら、鉢の上から受け皿に  
水がたまるように水をあげましょう！

#### ◎来年もアジサイを楽しむために…

花が終わったら、株元から4枚の花葉を残して切り、  
ベランダや窓際の日当たりの良い場所に置き、水が切れないように管理しましょう！



### <切り花の場合>

切り口の断面は広めに、深水で管理します。  
フレッシュタイプのアジサイは水揚げ時に栄養剤を使うと、  
花もちや発色がよくなります。

日持ちは常温で2週間程度、高温で10日程度です！

◎風通しの良いところに逆さに吊るしておく

ドライフラワーとしても楽しめます。



6月の梅雨の時期には各地域でアジサイの見頃を迎えます。

雨が多い日々の中で、彩り鮮やかなアジサイが生き生きと咲いている姿は目を惹きますよね♪

鉢物としても、切り花としても楽しめるこの季節ならではのアジサイを是非、ご家庭でもお楽しみください(^\_^)

(参考資料)

農山漁村分化協会 発行「農業技術大系 花卉編 11」

宇田明 桐生進著「花屋さんが知っておきたい花の小事典」

薄木健友著「切り花の鮮度保持マニュアル 水揚げ&花のケア」



株)大田花き  
品質カイゼン室

